

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係につ いては概要を記載)	説明者
I 審議事項				
1. シンポジウム等				
提案1	公開シンポジウム 「西日本豪雨災害の 緊急報告会」の開催 について	防災減災 学術連携 委員会委 員長、土 木工学・ 建築学委 員会委員 長	資料1 主催：日本学術会議防災減災学術連 携委員会、日本学術会議土木工学・ 建築学委員会、防災学術連携体 日時：平成30年9月10日（月） 13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	会長

公開シンポジウム「西日本豪雨災害の緊急報告会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会、防災学術連携体

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 30 年 9 月 10 日（月）13：00～17：30

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

西日本の広い範囲にわたり記録的な大雨となった西日本豪雨（平成 30 年 7 月豪雨）は、各地に河川の氾濫、土砂災害などの被害をもたらし 200 名を超える犠牲者を出しています。政府は西日本豪雨災害を、豪雨災害では初めて「特定非常災害」に指定し、激甚災害に指定しました。

今後、砂防ダムやため池の決壊などによる二次災害、夏後半から秋にかけて台風や秋雨前線に伴う大雨による土砂災害の拡大などが懸念されることから、予断を許さない状況にあります。

防災学術連携体（56 学会）は 7 月 9 日にホームページにこの豪雨災害のページを開設し、学会の調査情報、国土交通省・気象庁などの最新情報を掲載し、関係者間の情報共有に努めてきました。7 月 16 日には緊急集会を開催し、7 月 22 日には「西日本豪雨・市民への緊急メッセージ」を記者発表しました。

日本学術会議と防災学術連携体は、被害の拡大を防ぐために、西日本豪雨に関する学会間の情報交流を進め、今後の対策を検討するために緊急報告会を開催します。

8. 次 第：

司会：依田照彦（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）

13:00 開会挨拶

13:02 趣旨説明

13:10 緊急報告

セッション①「気象の変化、地形・地質等の状況」

セッション②「洪水・土砂・流木災害のメカニズム」

セッション③「避難情報の伝達・避難と救援」

セッション④「復旧・復興対策」

セッション⑤「西日本豪雨災害から学ぶ教訓と今後の対策」

*防災学術連携体を構成する56学会から発表者（1学会から1人）を募集する。

防災減災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会の委員も発表者に応募できる。

発表時間は発表者数によって異なる。発表者が20名の場合は一人10分間。

17:00 総合討論

コーディネーター 米田雅子（日本学術会議第三部会員、
慶應義塾大学先導研究センター特任教授）

17:27 閉会挨拶

和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

17:30 終了

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

（下線の講演者等は、主催委員会委員）